

身のまわりの歴史に関するメタヒストリー学習としての終結単元 — 主題としての紙幣 —

Possibilities of a Final Unit based on Meta-History Studies on History in Daily World:
Design of Banknotes as a Theme

服部 一 秀* 浅尾 和 世** 神戸 博 貴***
HATTORI Kazuhide ASAO Kazuyo KOBE Hiroki

要約：本稿は、小学校社会科と中学校社会科における歴史教育の終結単元において、児童・生徒が社会のなかの様々な歴史と熟考的にかかわっていくための学習をどのようにすれば保証できるかという問いに対して、身のまわりの歴史に関するメタヒストリー学習の2つの具体的な学習指導計画を通して答えようとするものである。小学校歴史教育の終結単元として例示するのが「お札の顔の昔と今」であり、中学校歴史教育の終結単元として例示するのが「紙幣の図柄が表すもの」である。紙幣という同一の主題に基づくメタヒストリー学習の学習指導計画を示し、それらの共通点と相違点を説明することにより、小学校と中学校の社会科歴史教育におけるメタヒストリー学習としての終結単元の可能性を明らかにする。

キーワード：終結単元，紙幣，メタヒストリー，小学校，中学校，歴史教育

I はじめに

本稿の目的は、小学校歴史教育と中学校歴史教育におけるメタヒストリー学習としての終結単元の可能性について、具体的な学習指導計画を通して明らかにすることである。

自らの社会のなかの歴史について取り扱うメタヒストリー学習は、過去を扱った既存の歴史の内容を理解する学習（第1層）、その内容の理解を踏まえ、既存の歴史の理由・背景を認識する学習（第2層）、理由・背景の認識を踏まえ、既存の歴史への対応を判断する学習（第3層）という3つの層からなる重層構造として捉えられる¹⁾。順進的な年代史的構成の場合、各時代を扱う個々の単元において第2層の学習まですすめることは可能であっても、つねに第3層の学習まですすめることは現実的には容易ではないかもしれない。けれども、小学校社会科や中学校社会科の歴史教育においても最低限、終結単元では第3層の学習まですすめ、社会のなかの既存の歴史を分析検討する学習の機会を保証することが必要である。社会でつくられるとともに社会をつくりださうる広義の歴史について問うことで社会の有り様を振り返るとともに新たな在り方を探ることができるよう、既存の様々な歴史と熟考的にかかわる能力を学習者に育てていくためである。

尤も、それを可能にする終結単元の構成は未だ明らかにはされていない。抑も、小学校や中学校の歴史教育における終結単元の研究それ自体、現行の2008年版学習指導要領において特設の終結単元が求められていないためか、殆ど行われていないのが現状である²⁾。まずはメタヒストリー学習の3つの層をトータルに可能にする終結単元の多様な可能性を検討することが求められる。

そこで本稿では、小学校と中学校における終結単元の学習指導計画を提示し、その一つの可能性

* 教育実践創成講座 ** 甲府市立北西中学校 *** 甲府市立池田小学校

を明らかにする。その学習指導計画とは「お札の顔の昔と今」(小学校)と「紙幣の図柄が表すもの」(中学校)であり、身のまわりにある紙幣を過去についての一種の語り(歴史ナラティブ)として分析検討するメタヒストリー学習を目指すものである。小学校歴史教育と中学校歴史教育の何れの終結単元についても紙幣を主題とする学習指導計画を提示するからといって、小学校歴史教育の終結単元でも中学校歴史教育の終結単元でも紙幣を主題にすべきであると主張するわけではない。それはあえて主題を同じにすることでメタヒストリー学習に基づく小中の終結単元を対比しやすくし、共通点と相違点を明確にするためである。また、小中学校歴史教育における紙幣という身のまわりにおいて児童・生徒が歴史とは意識していない事物の新たな取り扱い方を示すためである³⁾。紙幣の他にも適当な主題は考えられるが、本稿では小学校と中学校における紙幣を主題とするメタヒストリー学習としての終結単元の可能性を示すことにより、メタヒストリー学習の研究や終結単元の研究に寄与したい。以下、ⅡとⅢで、小学校用と中学校用のそれぞれについて、ねらいと基本構成、具体的な学習指導計画を提示し、Ⅳで、それらの計画の共通点と相違点を整理し、Ⅴで、小中学校の社会科歴史教育における終結単元の在り方について考察しよう。

Ⅱ 小学校歴史教育の終結単元「お札の顔の昔と今」

小学校歴史教育の終結単元「お札の顔の昔と今」の計画について、そのねらいと基本構成を説明した上で、具体的な学習指導計画を示そう。

1. 「お札の顔の昔と今」のねらいと基本構成

小学校歴史教育の終結単元「お札の顔の昔と今」の主要なねらいは、日本では明治期以降、歴史上の人物が紙幣の図柄とされることが多く、図柄の人物はその時々自分たちの国がどういう国であるかを国民に意識してもらうために選ばれてきたこと、現在は文化的な豊かさや男女の平等を大事にする国と意識してもらうために文化面で活躍した男性2人と女性1人が紙幣の図柄とされることがわかること、また、そのような現在の紙幣の図柄における歴史上の人物の選定が適切であるかどうかを吟味し、今後の紙幣の図柄の在り方を通して私たちが大事にしていくべきことを考えることである。

日本の紙幣で表面の図柄に人物の肖像が本格的に用いられているようになったのは明治中期以降であり、その肖像の人物に着目すると、これまでの紙幣の図柄の歴史は大きく3つの時期に分けられる。明治中期から第二次世界大戦の終戦までに発行された紙幣では、「皇室や天皇を擁護した伝承上や歴史上の忠君などの人物」の肖像、終戦後から1960年代に発行された紙幣では、聖徳太子を除き、「明治維新によって成立した近代的な政治制度の確立や、近代化に貢献した明治の元勳や政治家たち」の肖像、そして、それ以降に発行された紙幣では、女性を含め、歴史上の「文化人」の肖像が用いられている⁴⁾。このように紙幣の図柄に用いられる人物は一貫して過去の人物であるが、そのタイプは変化してきている。それは社会の有り様が変化し、政府が国民に共通してもらいたいと考える意識も変化してきたからである。紙幣の図柄に特定の歴史上の人物を採用することで、皆が日常的に想起し讃えるべき人物は誰であるのかを指定し、それを通して一定の自画像すなわち社会の在り方を暗示しようとしてきたが、社会の変化によって暗示したい在り方が変化してきたために、それを暗示するために利用する歴史上の人物も変化してきたわけである。

そうであるならば、紙幣の図柄に用いられる歴史上の人物、すなわち、“お札の顔”に注目し、現在の“お札の顔”を過去の2つの時期の“お札の顔”と比較することにより、児童は明治期から現在までの社会の大きな変化を改めて振り返りつつ、過去の社会における歴史の利用との対比において、現在の社会における歴史の利用の有り様を捉えることができる。また、そのような歴史の利用の有り様が望ましいものかどうかを考えることを通して、歴史学習の最後に社会の今後の在り方を

小学生なりに展望する機会をもつことができる。そこで「お札の顔の昔と今」では、上記のねらいを目指し、紙幣の図柄を取り上げ、その有り様と在り方について児童に取り組みさせる。

そのための「お札の顔の昔と今」の基本構成を対象とその考察、学習の内容、主要な指示・問いなどによって整理したものが、表1である。

表1 小学校「お札の顔の昔と今」の基本構成

段階		対象	考察	学習の内容	主要な指示・問い
第Ⅰ段階	パート1	紙幣の図柄	大戦期までの図柄	現在の紙幣図柄の内容と理由・背景の認識	○明治期から第二次世界大戦の頃までに発行されたお札の顔はどのような人物が多いでしょうか、その時代にそのような人物が選ばれたのはどうしてでしょうか。
	パート2		大戦期までとの比較による1960年代までの図柄における人物の特色の確認と人物の選定の分析		○第二次世界大戦の頃までに発行されたお札の顔と比べると、戦後から東京オリンピックが開かれた1960年代の頃までに発行されたお札の顔にはどのような特徴があるでしょうか、その時代にそのような人物が選ばれたのはどうしてでしょうか。
	パート3		過去との比較による現在の図柄における人物の特色の確認と人物の選定の分析		○明治期から1960年代の頃までに発行されたお札の顔と比べると、その後から現在までに発行されたお札の顔にはどのような特徴があるでしょうか、現在そのような人物がお札にのせられているのはどうしてでしょうか。
第Ⅱ段階	歴史としての紙幣の再構築的学習(第3層)		現在の図柄の継続・変更の妥当性の吟味検討	現在の紙幣図柄への対応の判断	◎今のお札の顔は別の人物の顔にかえるほうがよいでしょうか、それとも今のままのほうがよいでしょうか、それはどうしてでしょうか。

表1の通り、「お札の顔の昔と今」は紙幣の表面の図柄を対象とし、児童に人物の特色の確認と人物の選定の分析、そして継続・変更の妥当性の吟味検討という考察に取り組みさせ、大きく2段階で学習を展開させる。第Ⅰ段階は、広義の歴史としての紙幣の図柄の内容を理解し、そのような図柄の理由・背景を認識する発見的・脱構築的学習である。第Ⅱ段階は、既存の紙幣の図柄への対応を判断する再構築的学習である。

第Ⅰ段階では、「今のお札の顔を昔のお札の顔と比べ、3人の人物が選ばれた訳を考えましょう」という教師の指示の下、児童は過去の紙幣との比較において、現在の紙幣における図柄の内容の理解と理由・背景の認識に取り組む。そのために第Ⅰ段階は、3つのパートから構成される。

パート1では、「明治期から第二次世界大戦の頃までに発行されたお札の顔はどのような人物が多いでしょうか、その時代にそのような人物が選ばれたのはどうしてでしょうか」という問いの下、第二次世界大戦の終戦までに発行された紙幣の肖像の人物について取り上げる。それらの人物の共通性を捉えるとともに、そのような人物の選定を明治期から第二次世界大戦の頃の日本の様子と結びつけて分析する。そうして、明治期から第二次世界大戦の頃、日本の政府は天皇中心の国づくりや政治のために活躍した昔の政治家を紙幣にのせたことを理解し、天皇中心の国づくりや政治をす

すめるなか、そのような政治家を日常的に使う紙幣にのせて讃えることにより、日本は天皇中心の国であると国民に意識してもらおうとしたことを認識する。

パート2では、「第二次世界大戦の頃までに発行されたお札の顔と比べると、戦後から東京オリンピックが開かれた1960年代の頃までに発行されたお札の顔にはどのような特徴があるでしょうか、その時代にそのような人物が選ばれたのはどうしてでしょうか」という問いの下、第二次世界大戦後から1960年代までに発行された紙幣の肖像の人物について取り上げる。パート1で取り上げた大戦の頃までの紙幣と比べつつ、それらの人物の共通性を捉えるとともに、そのような人物の選定を大戦後から1960年代の頃の日本の様子と結びつけて分析する。そうすることにより、戦後以降、政府は外国を手本に新しい国づくりや政治のために活躍した昔の政治家を紙幣にのせたことを理解し、アメリカなどを手本にして民主化・経済発展をめざすなか、そのような政治家を日常的に使う紙幣にのせて讃えることにより、日本は外国を手本にして新しい国をつくっている、日本を復興・発展させていこうという意識を国民にもってもらおうとしたことを認識する。

パート3では、「明治期から1960年代の頃までに発行されたお札の顔と比べると、その後から現在までに発行されたお札の顔にはどのような特徴があるでしょうか、現在そのような人物がお札にのせられているのはどうしてでしょうか」という問いの下、1980年代以降に発行された紙幣の肖像の人物について取り上げる。パート1・2で取り上げた1960年代までの紙幣と比べつつ、それらの人物の共通性を捉えるとともに、そのような人物の選定を1980年代以降の日本の様子と結びつけて分析する。そうすることにより、1980年代以降、政府は女性を含む昔の文化人を紙幣にのせていることを理解し、経済発展を遂げ、文化的な豊かさや男女が同じように働ける社会の実現が課題となるなか、そのような男女の文化人を紙幣にのせて讃えることにより、文化的な豊かさや男女平等をめざすという意識を国民にもってもらおうとしていることを認識する。

このように第I段階においては、パート1で、明治期から第二次世界大戦の頃の紙幣図柄の内容の理解と理由・背景の認識に取り組み、パート2で、第二次世界大戦の頃までの紙幣の場合との比較において、第二次世界大戦後から1960年代の頃の紙幣図柄の内容の理解と理由・背景の認識に取り組み、そしてパート3において、明治期から1960年代の頃までの紙幣の場合との比較において、現在の紙幣図柄の内容の理解と理由・背景の認識に取り組み。3つのパートにより、過去の紙幣の図柄との時間的比較において現在の紙幣の図柄について特色づけるとともに分析し、紙幣が過去について取り扱っている広い意味での歴史であると気づき、その時々で社会で作りだされたものとして見つめ直すのが第I段階である。第I段階は、メタヒストリー学習において既存の歴史の内容を理解する第1層の発見的学習と理由・背景を認識する第2層の脱構築的学習とを一体的に行うものであり、そのために過去との比較を重視している。

第I段階を踏まえ、第II段階では、「今のお札の顔は別の人物の顔にかえるほうがよいでしょうか、それとも今のままのほうがよいでしょうか、それはどうしてでしょうか」という問いの下、歴史上の人物という現状の枠内で、図柄の継続・変更の妥当性を吟味検討し、現在の紙幣への対応の判断に取り組み。この段階はメタヒストリー学習における既存の歴史への対応を判断する第3層の再構築的学習を行うものである。

このように「お札の顔の昔と今」では、これらの2つの段階によって紙幣の図柄に関するメタヒストリー学習を展開させる。第1段階で、過去の紙幣との時間的比較に基づく特色づけと分析により、歴史としての現在の紙幣の発見的・脱構築的学習を行い、さらに第II段階で、現状の枠内における継続・変更の妥当性の吟味検討により、歴史としての現在の紙幣の再構築的学習を行う。紙幣を歴史として取り扱うメタヒストリー学習を第1・2層の学習に重点をおきながらも、それを踏まえて第3層まですすめるわけである。

2. 「お札の顔の昔と今」の学習指導計画

「お札の顔の昔と今」は、小学校の児童が歴史学習の最後に身のまわりにある紙幣を歴史として分析検討する終結単元であり、メタヒストリー学習における第1・2層の学習を中心としながらも、第3層の学習まで可能にするものである。そのような「お札の顔の昔と今」の具体的な学習指導計画を表2として示そう。

表2 小学校「お札の顔の昔と今」の学習展開

段階	発問・指示	教授・学習活動	資料	予想される答え／学ばせたい内容
第1段階 パート1	<ul style="list-style-type: none"> 現在の千円札，五千円札，一万円札にはだれがのせられていますか。 明治期から現在までに日本銀行が発行したお札にのせられたことがある人物はだれか，予想してみましょう。 そのように予想した理由は何ですか。どういう人物がお札の顔になったことがあると思いますか。 実際にお札の顔になったことがある人物を一覧表で確認し，予想をたしかめてみましょう。 ◎今のお札の顔を昔のお札の顔と比べ，3人の人物が選ばれた訳を考えましょう。 ○明治期から第二次世界大戦の頃までに発行されたお札の顔はどのような人物が多いでしょうか，その時代にそのような人物が選ばれたのはどうしてでしょうか。 明治期から第二次世界大戦の頃までのお札にのっている人物のなかで知っている人物はいますか，それはどういう人物ですか。教科書やノートや資料集を使ってもかまいません。 この時期のお札に何度ものっている武内宿禰，和気清麻呂，菅原道真も，天皇中心の国づくりや天皇中心の政治のために活躍した政治家ですが，この時期のお札にのっている人物はどの時代の人物か，一覧表でたしかめましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> T:発問する C:答える T:発問する C:予想する T:発問する C:答える T:指示する C:確認し，答える T:学習課題を提示する T:発問する T:発問する C:答える T:発問する C:確認し，答える 	<ul style="list-style-type: none"> ① ① ① 	<ul style="list-style-type: none"> 千円札－野口英世 五千円札－樋口一葉 一万円札－福沢諭吉 卑弥呼，聖徳太子，天智天皇，聖武天皇，藤原道長，源頼朝，足利義満，織田信長，豊臣秀吉，徳川家康，坂本龍馬，西郷隆盛，陸奥宗光，小村寿太郎 …… 有名な人物 すごい人物 強い武将 日本のために活躍した人物 など ① ① ①

身のまわりの歴史に関するメタヒストリー学習としての終結単元

<p>パート1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そのような人物がのったお札は、過去のどういう人物こそが皆がたたえるべき偉人であると言っているのでしょうか。 ・明治期から第二次世界大戦の頃、日本の政府が天皇中心の国づくりや政治のために活躍した過去の政治家こそが偉人であるとお札を使って言おうとしたのはどうしてでしょうか。教科書やノートや資料集を参考にしてグループで話し合ってください。 ・グループで話し合ったことを発表してください。 <p>○明治期から第二次世界大戦の頃までに発行されたお札の顔はどのような人物が多いか、その時代にそのような人物が選ばれたのはどうしてか、まとめてみましょう。</p>	<p>T:発問する C:答える</p> <p>T:発問する C:グループで話し合う</p> <p>T:指示する C:発表する T:整理する</p> <p>T:指示する C:まとめる</p>	<p>教科書、ノート、資料集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聖徳太子や藤原(中臣)鎌足など、天皇中心の国づくりや天皇中心の政治のために活躍した政治家こそが皆がたたえるべき偉人であると言おうとしている。 ・大日本帝国憲法に代表されるように、明治期から第二次世界大戦の頃まで、日本の政治は天皇中心の政治であった。そのような時代に政府は、天皇中心の国づくりや政治のために活躍した昔の政治家を人々が日常的に使うお札にのせ、偉人としてたたえることにより、日本は天皇中心の国であるという意識を皆に持ってもらおうと考えた。 など ・天皇中心の国づくりや政治のために活躍した過去の政治家が選ばれていた。 ・天皇中心の政治であった明治期から第二次世界大戦の頃、日本の政府はそのような人物を皆が使うお札にのせ、偉人であることにより、日本は天皇中心の国であるという意識を皆に持ってもらおうと考えた。
<p>パート2</p>	<p>○第二次世界大戦の頃までに発行されたお札の顔と比べると、戦後から東京オリンピックが開かれた1960年代の頃までに発行されたお札の顔にはどのような特徴があるでしょうか、その時代にそのような人物が選ばれたのはどうしてでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦後から東京オリンピックが開かれた1960年代の頃までに発行されたお札にのっている人物のなかで、聖徳太子以外に知っている人物はいますか、それはどういう人物ですか。教科書やノートや資料集を使ってもかまいません。 ・伊藤博文・板垣退助は、明治期から第二次世界大戦の頃までに発行されたお札の顔とは、どのような点が共通しており、どのような点が異なりますか。 	<p>T:発問する</p> <p>T:発問する C:答える</p> <p>T:発問する C:答える</p>	<p>① 教科書、ノート、資料集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伊藤博文、板垣退助など ・伊藤博文は、初代の内閣総理大臣であり、明治期に外国を手本にした近代的な国づくりや政治のために活躍した政治家である。 ・板垣退助は、明治期の自由民権運動の中心人物であり、外国を手本にした民主政治のために活躍した政治家である。 ・伊藤博文も、板垣退助も、外国を手本にした新しい国づくりや政治のために活躍した政治家である。 ・共通していることーその時代よりも前の過去の人物であること。政治家であること。 ・異なることー活躍した時代が違うこと。外国を手本にした新しい国づくりや政治のために活躍した政治家であること。

身のまわりの歴史に関するメタヒストリー学習としての終結単元

<p>パート2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・戦前のお札の顔であった聖徳太子が戦後のお札の顔にも選ばれたのはどうしてでしょうか。聖徳太子にも、外国を手本にした新しい国づくりや政治のために活躍した政治家という面がありますか。 ・お札によって、過去のどういう人物こそが皆がたたえるべき偉人であると言っているのでしょうか。 ・第二次世界大戦後から1960年代の頃、政府が外国を手本にした新しい国づくりや政治のために活躍した過去の政治家こそが偉人であるとお札を使って言おうとしたのはどうしてでしょうか。教科書やノートや資料集を参考にしてグループで話し合ってください。 ・グループで話し合ったことを発表してください。 <p>○第二次世界大戦の頃までに発行されたお札の顔と比べると、戦後から東京オリンピックが開かれた1960年代の頃までに発行されたお札の顔にはどのような特徴があるか、その時代にそのような人物が選ばれたのはどうしてか、まとめてみましょう。</p>	<p>T:発問する C:答える</p> <p>T:発問する C:答える</p> <p>T:発問する C:グループで話し合う</p> <p>T:指示する C:発表する T:整理する</p> <p>T:指示する C:まとめる</p>	<p>教科書, ノート, 資料集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聖徳太子は遣隋使を送るなど、外国を手本にした新しい国づくりや政治のために活躍した政治家といえる。 ・伊藤博文、板垣退助、聖徳太子など、外国を手本にした新しい国づくりや政治のために活躍した政治家こそが皆がたたえるべき偉人であると言おうとしている。 ・第二次世界大戦の後、日本では社会のしくみが大きく変わり、アメリカなどを手本にして民主化・経済発展がめざされた。そのような時代に政府は、外国を手本にした新しい国づくりや政治のために活躍した昔の政治家を人々が日常的に使うお札にのせ、偉人として讃えることにより、日本は外国を手本にして新しい国づくりや政治に取り組んでいる、日本を復興・発展させていこうという意識を皆に持ってもらうと考えた。 など ・外国を手本にした新しい国づくりや政治のために活躍した過去の政治家が選ばれていた。 ・アメリカなどを手本にして民主化・経済発展がめざされた戦後以降、日本の政府はそのような人物を皆が使うお札にのせ、偉人であるとたたえることにより、日本は外国を手本にして新しい国づくりや政治に取り組んでいる、日本を復興・発展させていこうという意識を皆に持ってもらうと考えた。
<p>パート3</p>	<p>○明治期から1960年代の頃までに発行されたお札の顔と比べると、その後から現在までに発行されたお札の顔にはどのような特徴があるでしょうか、そのような人物がお札にのせられているのはどうしてでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1980年代以降に発行されたお札にのっている人物のなかで、知っている人物はいますか、それはどういう人物ですか。教科書やノートや資料集を使ってもかまいません。 	<p>T:発問する</p> <p>T:発問する C:答える</p>	<p>① 教科書, ノート, 資料集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福沢諭吉、夏目漱石、野口英世、樋口一葉 ・福沢諭吉は、『学問のすすめ』を書くなど、明治期の代表的な思想家・教育家である。

<p>パート3</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文化面で活躍する人のことを文化人といいますが、国際連盟の事務次長をつとめ世界平和を唱えた新渡戸稲造も学者・教育者で文化人といえます。明治期から1960年代頃までに発行されたお札の人物と比べると、どのような点が共通しており、どのような点が異なりますか。 過去に文化面で活躍した男性・女性がおったお札によって、過去のどういう人物こそが皆がたたえるべき偉人であると言っているのでしょうか。 1980年代頃から現在まで、男女の区別なく、思想・教育・文学・科学などの文化面で活躍した昔の文化人こそが偉人であると政府がお札を使って言おうとしたのはどうしてでしょうか。教科書やノートや資料集を参考にしてグループで話し合ってください。 グループで話し合ったことを発表してください。その後、皆で意見交換しましょう。 <p>○明治期から1960年代の頃までに発行されたお札の顔と比べると、その後から現在までに発行されたお札の顔にはどのような特徴があるか、そのような人物がお札にのせられているのはどうしてか、まとめてみましょう。</p>	<p>T:発問する C:答える</p> <p>T:発問する C:答える</p> <p>T:発問する C:グループで話し合う</p> <p>T:指示する C:発表する C:意見交換する</p> <p>T:指示する C:まとめる</p>	<p>教科書、ノート、資料集</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏目漱石は、『吾輩は猫である』などで有名な明治・大正期の代表的な小説家である。 野口英世は、明治・大正期にアメリカの研究所で細菌学を研究し、大きな功績をあげた科学者である。 樋口一葉は、『たけくらべ』『にごりえ』などの小説で有名な明治期の女性小説家である。 福沢諭吉、夏目漱石、野口英世、樋口一葉は、思想・文学・科学などの文化面で活躍した人物である。 共通していることーその時代よりも前の過去の人物であること。 異なることー政治家ではなく、思想・教育・文学・科学などの文化面で活躍した文化人であること。女性が選ばれていること。 福沢諭吉、夏目漱石、野口英世、樋口一葉など、男女の区別なく、思想・教育・文学・科学などの文化面で活躍した昔の文化人こそが皆がたたえるべき偉人であると言おうとしている。 1980年代までに日本は著しい経済発展をとげ、経済的な豊かさだけでなく文化的な豊かさや男女が同じように働ける社会の実現が課題とされるようになった。そのような時代に政府は、女性を含め、思想・教育・文学・科学などの文化面で活躍した昔の文化人を人々が日常的に使うお札にのせ、偉人としてたたえることにより、日本は文化的な豊かさや男女平等を実現していくという意識を皆に持ってもらおうと考えた。 など 女性を含め、思想・教育・文学・科学などの文化面で活躍した過去の文化人が選ばれている。 著しい経済発展をとげ、経済的な豊かさだけでなく文化的な豊かさや男女が同じように働ける社会の実現が課題となった1980年代以降、日本の政府はそ
-------------	--	--	--

身のまわりの歴史に関するメタヒストリー学習としての終結単元

<p>パート3</p>	<p>◎今のお札の顔を昔のお札の顔と比べ、お札の顔が時期によって違う理由を意識しながら、3人の人物が選ばれた訳を考えましょう。</p>	<p>T:学習課題を再提示する C:答える T:整理する</p>	<p>のような人物を皆が日常的に使うお札にのせ、偉人であるとたたえることにより、日本は文化的な豊かさや男女平等を実現していくという意識を皆に持ってもらうと考えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去の人物という点では共通しているが、政治家ではなく女性を含む文化人という点で異なっている。 明治期以降のどの時期にも、日本の政府はその時々々の社会の様子に応じて、日本がどういう国であるかという意識を皆に共通して持ってもらうため、それに合う過去の人物を皆が日常的に使うお札にのせて偉人としてたたえてきた。現在の3人は、日本が著しい経済発展をとげ、経済的な豊かさだけでなく文化的な豊かさや男女が同じように働ける社会の実現が課題となっていることから、日本は文化的な豊かさや男女平等を実現していくという意識を皆に持ってもらうと政府が考え、文化面で活躍した昔の男女の文化人をお札にのせてたたえるために選んだ人物である。
<p>第Ⅱ段階</p>	<p>◎今のお札の顔は別の人物の顔にかえるほうがよいでしょうか、それとも今のままのほうがよいでしょうか、それはどうしてでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今のお札の人物が選ばれた基準は何ですか。 もし、今、お札の人物をだれにするか決めるとしたら、今のお札にのっている人物は別の人物にかえるほうがよいですか、それとも今のままのほうがよいですか、それはどうしてですか。グループで話し合い、「私たちは、私たちの社会では～が大切なので、～がよいと思います。その理由は～です。」というかたちで表現してください。 グループで話し合ったことを発表してください。 	<p>T:学習課題を提示する T:発問する C:答える T:指示する C:グループで話し合う T:指示する C:発表する</p>	<p>教科書、ノート、資料集</p> <ul style="list-style-type: none"> 思想・教育・文学・科学などの文化面で活躍した昔の男女の文化人という基準で選ばれている。 私たちは、私たちの社会では学問・教育の重視、女性の社会進出、科学の発展が大切なので、今のまま、福沢諭吉、樋口一葉、野口英世がよいと思います。その理由は、福沢諭吉は『学問のすすめ』を書くなど、明治期の代表的な思想家・教育家、樋口一葉は『たけくらべ』『にごりえ』などの小説で有名な明治期の女性小説家、野口英世は明治・大正期にアメリカの研究所で細菌学を研究し、大きな功績をあげた科学者だからです。 私たちは、私たちの社会では科学の発展が大切なので、伊能忠敬がよいと思

第Ⅱ段階	<p>◎今のお札の顔は別の人物の顔にかえるほうがよいか、それとも今のままのほうがよいか、それはどうしてか、自分の考えをまとめてみましょう。</p> <p>・中学校の社会科でも歴史の学習や現在の社会の学習をします。中学校で社会科を学習するとき、現在の社会ではお札の顔としてだれがなぜふさわしいかを自分なりに考えてみましょう。</p>	<p>T: 学習課題を再提示する C: 考えをまとめる</p> <p>T: 授業後の追究を促す</p>	<p>います。伊能忠敬は江戸時代に全国を測量して正確な日本地図をつくるという功績をあげ、科学の発展という課題に合うと思うからです。</p> <p>・私たちは、私たちの社会では男女平等と平和が大切なので、与謝野晶子や平塚らいてうがよいと思います。その理由は、与謝野晶子は「君死にたまふことなかれ」などで有名な女性の詩人だから、平塚らいてうは女性解放や平和のための運動をすすめた女性運動家だからです。 など</p> <p>(省略)</p>
------	---	---	---

【資料】①日本銀行券の図柄の一覧表（植村峻『お札のはなし』、印刷朝陽会、2006年、pp.109-110などをもとに作成）

Ⅲ 中学校歴史教育の終結単元「紙幣の図柄が表すもの」

次に、中学校歴史教育の終結単元「紙幣の図柄が表すもの」の計画について、そのねらいと基本構成を説明した上で、具体的な学習指導計画を示そう。

1. 「紙幣の図柄が表すもの」のねらいと基本構成

中学校歴史教育の終結単元「紙幣の図柄が表すもの」の主要なねらいは、紙幣の図柄に採用する歴史的な存在を通して自国に対する一定の意識を国民に促そうとする傾向が歴史的・世界的にあり、日本では現在、文化的な豊かさや男女の均等な雇用機会を実現していくという意識を促すために、それに相応しい女性を含む文化人という歴史上の人物を紙幣の図柄に利用していることをわかること、また、歴史上の人物を用いる場合の現在の人物選定の妥当性、及び、歴史上の人物を用いること自体の妥当性を問い、紙幣の図柄の在り方を考えることで社会の在り方を考えることである。

紙幣の図柄に歴史上の人物などの歴史的な存在を利用する傾向は、日本だけでなく、世界の多くの国々にみられる⁵⁾。例えば、アメリカの場合、紙幣の図柄にはワシントン大統領、リンカーン大統領など、アメリカの独立や南北戦争などで活躍した歴史上の政治家が描かれており、それらは全員が白人の男性である。EUの場合、ユーロという共通通貨が使用されており、その表面にはギリシア・ローマ時代以降の様々な時期の建築様式に基づいた窓が描かれている。エジプトの場合、表面に国内各地のイスラム教寺院が描かれ、裏面には古代エジプトの遺跡などが描かれている。中国の場合、全ての紙幣の表面には中華人民共和国の建国の父とされる毛沢東が描かれている。紙幣の図柄における歴史的な存在の政治的利用は世界的な傾向といえる。

中学校社会科では地理的分野で世界地理を学ぶこと、歴史的分野で限定的ではあるが世界史的内容を学ぶことから、歴史的分野の終結単元において、明治期以降の紙幣の図柄とともに、世界の国々などの紙幣の図柄をもとに、紙幣における歴史的な存在の利用の傾向性を掴むことが生徒にとって可能である。歴史的・世界的に見出される傾向性のなかで、歴史上の人物という歴史的な存在を用

いる事例として、現在の日本の紙幣における図柄を捉えるわけである。また、そのような考察を前提とすることにより、歴史上の人物を用いる場合の現在の人物選定の妥当性だけでなく、歴史的な存在としての歴史上の人物を用いること自体の妥当性を問うことも可能となり、生徒は紙幣の図柄の在り方を根底的に考えることで社会の在り方を考えることができる。そこで「紙幣の図柄が表すもの」では、上記のねらいを目指し、紙幣の図柄を取り上げ、その有り様を広い視野から捉えさせ、在り方について深く掘り下げて検討させる。

そのための「紙幣の図柄が表すもの」の基本構成を対象とその考察、学習の内容、主要な問いなどによって整理したものが、表3である。

表3 中学校「紙幣の図柄が表すもの」の基本構成

段階		対象	考察	学習の内容	主要な指示・問い	
第Ⅰ段階	歴史としての紙幣の発見的学習(第1層)		過去の紙幣との比較による人物の特色の確認	紙幣の図柄の内容の理解	◎歴史上の偉人として現在の紙幣の表面に描かれている人物にはどのような特徴があるか、日本銀行がこれまでに発行した紙幣を表面の図柄の人物によって時期区分することを通して考えましょう。	
	第Ⅱ段階	歴史としての紙幣の脱構築的学習(第2層)	過去の紙幣との比較による人物の選定の分析	過去との比較による紙幣の図柄の理由・背景の認識	◎現在の紙幣の図柄として、福沢諭吉・樋口一葉・野口英世という歴史上の人物が選ばれたのは、なぜでしょうか	◎歴史上の偉人という点では変わっていないにもかかわらず、過去の場合と比べて現在の紙幣の図柄に選ばれた人物が異なっているのはなぜでしょうか。
歴史としての紙幣の発見的・脱構築的学習(第1・2層)		外国の紙幣との比較に基づく図柄の特色の確認と選定の分析		外国との比較による紙幣の図柄の理由・背景の認識		◎紙幣の図柄は時期によってだけでなく国によっても異なりますが、諸外国と日本の紙幣の図柄に共通の傾向はあるのでしょうか、それはなぜでしょうか。
第Ⅲ段階	パート1	現在の紙幣の図柄	歴史上の人物を図柄化する場合の現在の選定と基準の妥当性の吟味検討	紙幣の図柄における人物選定への対応の判断	◎紙幣の図柄が福沢諭吉・樋口一葉・野口英世であること、また、紙幣の図柄を歴史上の人物とすることに問題はあるのでしょうか、それはなぜでしょうか。	◎もし、紙幣の図柄を歴史上の人物とすることを続けるとしたら、その人物が福沢諭吉・樋口一葉・野口英世であることに問題はあるのでしょうか、それはなぜでしょうか。
	パート2		歴史上の人物の図柄化それ自体の妥当性の吟味検討	紙幣の図柄における歴史上の人物の利用への対応の判断		◎そもそも紙幣の表面の図柄を歴史上の人物とすることに問題はあるのでしょうか、それはなぜでしょうか。

表3の通り、「紙幣の図柄が表すもの」は現在の日本の紙幣における表面の図柄を中心対象とし、生徒に人物の特色の確認、人物の選定の分析、継続・変更の妥当性の吟味検討という考察に取り組みせ、大きく3段階で学習を展開させる。第Ⅰ段階は、広義の歴史としての紙幣の図柄の内容を理解する発見的学習の段階であり、第Ⅱ段階は、そのような図柄の理由・背景を認識する脱構築的学習の段階であり、第Ⅲ段階は、既存の紙幣の図柄への対応を判断する再構築的学習の段階である。

第Ⅰ段階では、「歴史上の偉人として現在の紙幣の表面に描かれている人物にはどのような特徴があるか、日本銀行がこれまでに発行した紙幣を表面の図柄の人物によって時期区分することを通して考えましょう」という教師の問いの下、生徒はこれまでの紙幣を図柄の人物によって3つの時期

に区分することを通じて、過去の紙幣との時間的比較に基づき、現在の紙幣における人物の特色を確認する。歴史上の人物が描かれていること、政治家ではなく、思想・教育・文学・科学などの文化面で活躍した文化人が描かれていること、女性が含まれていることに気づき、男女を問わず文化面で大きな功績をのこした歴史上の人物を日常的に思い起こし讃えるべきであると語りかけていることを捉え、紙幣の図柄の内容を理解するのが、第Ⅰ段階である。

第Ⅱ段階では、「現在の紙幣の図柄として、福沢諭吉・樋口一葉・野口英世という歴史上の人物が選ばれたのは、なぜでしょうか」という問いの下、2つのパートによって学習を展開する。

パート1では、「歴史上の偉人という点では変わっていないにもかかわらず、過去の場合と比べて現在の紙幣の図柄に選ばれた人物が異なっているのはなぜでしょうか」という問いに基づき、過去の2つの時期の場合との時間的比較を踏まえ、現在の紙幣における人物の選定を分析する。日本では明治期以降、政府が自国に対する望ましい意識を国民に促す手段として、歴史上の人物を紙幣に描くことで讃えてきたこと、歴史上の有名な人物という点では変わっていないが、第二次世界大戦の終わりや高度経済成長の終わりに伴う社会の変化によって、国民に促したい意識が変化し、現在では文化的な豊かさや男女の平等を実現する国という自国に対する意識を促すため、女性を含む歴史上の文化人を紙幣の図柄にしていることを認識する。

パート2では、「紙幣の図柄は時期によってだけでなく国によっても異なりますが、諸外国と日本の紙幣の図柄に共通の傾向はあるでしょうか、それはなぜでしょうか」という問いに基づき、アメリカ、イギリス、EU、エジプト、中国、インド、オーストラリアにおける紙幣の図柄やその選定との空間的比較を行う。世界的にみて、歴史上の人物を中心に歴史的な存在を図柄としている国や連合体が多いこと、それぞれの国や連合体で人々に促したい共通意識を紙幣の図柄によって表現する傾向があることを掴む。そうして、パート1での学習を踏まえ、現在の日本のケースをそのような世界的な傾向に位置づけて改めて捉えなおす。

このように第Ⅱ段階では、パート1での時間的比較とパート2での空間的比較とに基づき、現在の日本における紙幣の図柄の理由・背景を認識するわけである。

第Ⅲ段階では、「紙幣の図柄が福沢諭吉・樋口一葉・野口英世であること、また、紙幣の図柄を歴史上の人物とすることに問題はあるでしょうか、それはなぜでしょうか」という問いの下、2つのパートで学習を展開させる。

パート1では、「もし、紙幣の図柄を歴史上の人物とすることを続けるとしたら、その人物が福沢諭吉・樋口一葉・野口英世であることに問題はあるでしょうか、それはなぜでしょうか」という問いに基づき、文化面で大いに活躍した歴史上の男性・女性という選定基準を維持する場合の現在の人物の選定の妥当性、また、文化面で大いに活躍した歴史上の男性・女性という選定基準それ自体の妥当性を吟味検討する。

パート2では、「そもそも紙幣の表面の図柄を歴史上の人物とすることに問題はあるでしょうか、それはなぜでしょうか」という問いに基づき、特定の人物を図柄にすることの妥当性、また、歴史的な存在を図柄にすることの妥当性を吟味検討する。

第Ⅲ段階では、パート1で歴史上の人物をのせる場合の現在の人物と選定基準の妥当性を問いなおし、パート2で歴史上の人物をのせること自体の妥当性を問い直し、これらを通して現在の紙幣の図柄への対応を判断するわけである。

このように「紙幣の図柄が表すもの」では、3つの段階によって紙幣の図柄に関するメタヒストリー学習を展開させる。第Ⅰ段階において、過去の紙幣との時間的比較に基づく特色づけにより、歴史としての現在の紙幣の発見的学習を行う。第Ⅱ段階において、過去の紙幣との時間的比較に基づく分析、外国の紙幣との空間的比較に基づく再度の特色づけと分析により、歴史としての現在の

紙幣の脱構築的学習を行う。第Ⅲ段階において、歴史上の人物をのせる場合の現在の人物と選定基準の妥当性、さらに歴史上の人物をのせること自体の妥当性の吟味検討により、歴史としての現在の紙幣の再構築的学習を行う。紙幣を歴史として取り扱うメタヒストリー学習において第1・2層だけでなく第3層にも重きをおき、第1～3層の各層を重視し、トータルにすすめるのである。

2 「紙幣の図柄が表すもの」の学習指導計画

「紙幣の図柄が表すもの」は、中学校の生徒が歴史学習の最後に身のまわりにある紙幣を歴史として分析検討する終結単元であり、第1層から第3層までのメタヒストリー学習を各層に重きをおきつつトータルに可能にするものである。そのような「紙幣の図柄が表すもの」の具体的な学習指導計画を表4として示そう。

表4 中学校「紙幣の図柄が表すもの」の学習展開

段階	発問・指示	教授・学習活動	資料	予想される答え／学ばせたい内容
第Ⅰ段階	<ul style="list-style-type: none"> 千円札には何が描かれていますか。 それは表面ですが、裏面には何が描かれていますか。 紙幣の図柄で私たちの印象に残っているのは表面の肖像ですが、一万円札や五千円札の表面には誰が描かれていますか。 福沢諭吉・樋口一葉・野口英世は何れも歴史上の人物です。明治期以降に発行された殆どの日本銀行券の表面にも歴史上の人物が描かれていますが、人物は変化してきています。現在の3人はどういう人物だから選ばれているのでしょうか。 	<p>T:発問する S:答える</p> <p>T:発問する S:答える</p> <p>T:発問する S:答える</p> <p>T:発問する S:答える</p>	① 教科書、 ノート、 資料集	<ul style="list-style-type: none"> 野口英世 わからない 富士山？ 一万円札－福沢諭吉 五千円札－樋口一葉 有名人 偉人 など
	<p>◎歴史上の偉人として現在の紙幣の表面に描かれている人物にはどのような特徴があるか、日本銀行がこれまでに発行した紙幣を表面の図柄の人物によって時期区分することを通して考えてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 明治期から現在までの紙幣の一覧表をもとに、グループで話し合い、紙幣を図柄の人物によって3つの時期に分けてみましょう。その際に教科書やノートや資料集を使ってもかまいません。 それでは、グループで話し合ったことを発表してください。 	<p>T:学習課題を提示する</p> <p>T:発問する S:グループで話し合う</p> <p>T:指示する S:発表する T:整理する</p>		<ul style="list-style-type: none"> 明治期から第二次世界大戦の頃に発行された紙幣（藤原鎌足，菅原道真，和氣清麻呂，武内宿禰，聖徳太子など） 第二次世界大戦後から1960年代頃に発行された紙幣（伊藤博文や岩倉具視，板垣退助，聖徳太子など） 1980年代以降から現在に発行された紙幣（福沢諭吉，新渡戸稲造，夏目漱石，樋口一葉，野口英世）

身のまわりの歴史に関するメタヒストリー学習としての終結単元

<p>第I段階</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明治期から第二次世界大戦の頃に発行された紙幣にのっている人物にはどのような特徴がありますか。 ・第二次世界大戦後から1960年代頃に発行された紙幣にのっている人物にはどのような特徴がありますか。 ・1980年代以降から現在に発行された紙幣にのっている人物にはどのような特徴がありますか。 ・福沢諭吉・樋口一葉・野口英世という3人がのっている現在の紙幣は、それらを使う国民に対してどのようなことを語りかけているといえるか、話し合ってみましょう。 ◎歴史上の偉人として現在の紙幣の表面に描かれている人物にはどのような特徴があるのでしょうか。 	<p>T: 発問する S: 答える</p> <p>T: 発問する S: 答える</p> <p>T: 発問する S: 答える</p> <p>T: 発問する S: 話し合う T: 整理する</p> <p>T: 学習課題を再提示する S: 答える</p>	<p>教科書、ノート、資料集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治期から第二次世界大戦の頃も、第二次世界大戦後から1960年代の頃も、聖徳太子は採用されていた。 など ・天皇中心の国づくりや政治のために力を注いだ過去の政治家という特徴がある。 ・例えば、聖徳太子は、摂政として、十七条の憲法をつくるなど、豪族の力をおさえ、天皇中心の政治をすすめようとした。藤原鎌足は、中大兄皇子とともに大化の改新で蘇我氏を倒し、天皇中心の政治をすすめようとした。菅原道真是、天皇中心の政治をすすめようとし、藤原氏によって力を奪われた。 ・外国の進んだ考えやしくみに学んで新しい国づくりや政治に力を注いだ過去の政治家という特徴がある。 ・例えば、聖徳太子は、遣隋使を派遣し、隋(中国)の進んだ制度や文化を学んで新しい政治に活かそうとした。伊藤博文や岩倉具視は、アメリカやヨーロッパ諸国を訪問し、その成果を近代国家の形成に活かした。板垣退助は、ヨーロッパの政治に学び、自由民権運動を行った。 ・思想・教育・文学・科学などの文化面で活躍した過去の文化人という特徴があり、女性が含まれている。 ・例えば、福沢諭吉は、『学問のすすめ』を書いたり、慶應義塾をつくるなど、明治時代の代表的な思想家・教育家である。新渡戸稲造は、学者・教育者であり、国際連盟の事務次長をつとめ世界平和を唱えた他、『武士道』でも有名である。夏目漱石は、『吾輩は猫である』、『こころ』などで有名な明治・大正期の代表的な小説家である。樋口一葉は、『たけくらべ』『にごりえ』などの小説で有名な明治期の女性小説家である。野口英世は、明治・大正期にアメリカの研究所で細菌学を研究し、大きな功績をあげた科学者である。 ・3人が偉人であると語りかけている。 ・皆が日常において紙幣を使うたびに思い起こし讃えるべき人物であると語りかけている。 ・今の日本では男女を問わず文化面で大きな功績をのこした歴史上の人物を日常的に思い起こし讃えるべきであると語りかけている。 など ・歴史上の有名な人物が描かれている。 ・政治家ではなく、思想・教育・文学・科学などの文化面で活躍した文化人が描かれている。
-------------	---	--	---

身のまわりの歴史に関するメタヒストリー学習としての終結単元

				<ul style="list-style-type: none"> ・女性が含まれている。 ・男女を問わず文化面で大きな功績をのこした歴史上の人物を日常的に思い起こし讃えるべきであると語りかけている。 	
第Ⅱ段階	パート1	<p>◎現在の紙幣の図柄として、福沢諭吉・樋口一葉・野口英世という歴史上の人物が選ばれたのは、なぜでしょうか。</p> <p>○歴史上の偉人という点では変わっていないにもかかわらず、過去の場合と比べて現在の紙幣の図柄に選ばれた人物が異なっているのはなぜでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治期から第二次世界大戦の頃に発行された紙幣で、天皇中心の国づくりや政治に力を注いだ過去の政治家が図柄に選ばれたのは、なぜでしょうか。 ・第二次世界大戦後から1960年代頃に発行された紙幣で、外国の進んだ考えやしくみに学んで新しい国づくりや政治に力を注いだ過去の政治家が図柄に選ばれたのは、なぜでしょうか。 ・1980年代から現在に発行された紙幣で、女性を含む過去の文化人が図柄に選ばれているのは、なぜでしょうか。教科書やノートや資料集を参考にし、グループで話し合ってみましょう。 ・それでは、グループで話し合ったことを発表してください。 	<p>T:学習課題を提示する</p> <p>T:発問する S:予想する</p> <p>T:発問する S:答える</p> <p>T:発問する S:答える</p> <p>T:発問する S:グループで話し合う</p> <p>T:指示する S:発表する T:まとめる</p>	<p>教科書、ノート、資料集</p> <p>教科書、ノート、資料集</p> <p>教科書、ノート、資料集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時代的な背景が変わったからではないか。など ・大政奉還、王政復古の号令や大日本帝国憲法などに代表されるように、明治期から第二次世界大戦の頃まで、日本の政治は天皇中心の政治であった。そのような時代に政府は、天皇中心の国づくりや政治のために活躍した過去の政治家を人々が日常的に使うお札にのせ、偉人として讃えることにより、日本は天皇中心の国であるという自国に対する意識を国民皆に持ってもらうと考えた。 ・第二次世界大戦の敗戦後、日本国憲法などに代表されるように、日本では社会のしくみが大きく変わり、アメリカなどを手本にして民主化・経済発展がめざされ、高度経済成長にも成功した。そのような時代に政府は、外国の進んだ考えやしくみに学んで新しい国づくりや政治に力を注いだ過去の政治家を人々が日常的に使うお札にのせ、偉人として讃えることにより、日本は外国を手本にして新しい国づくりや政治に取り組んでいる、日本を復興・発展させていこうという自国に対する意識を国民皆に持ってもらうと考えた。 ・1980年代までに高度経済成長によって急速な発展をとげた日本では安定成長に移行し、経済的な豊かさだけでなく文化的な豊かさや男女の均等な雇用機会がまもられる社会の実現が課題となった。そのような時代になったことで政府は、女性を含め、思想・教育・文学・科学などの文化面で活躍した過去の文化人を人々が日常的に使うお札にのせ、偉人として讃えることにより、日本は文化的な豊かさや男女平等を大事にする国であり、それを一層実現していく国であるという自国に対する意識を国民皆に持ってもらうと考えた。など

身のまわりの歴史に関するメタヒストリー学習としての終結単元

	<p>○歴史上の偉人という点では変わっていないにもかかわらず、過去の場合と比べて現在の紙幣の図柄に選ばれた人物が異なっているのはなぜでしょうか。</p>	<p>T:発問する S:答える</p>	<p>・明治期以降、紙幣の図柄の人物は、その時期その時期に政府が国民皆にもってもらいたい意識にあわせて選ばれており、社会が変化すると政府が国民皆にもってもらいたい意識も変化するため、紙幣の人物も変化する。歴史上の偉人という点では変わっていないが、第二次世界大戦の終わりや高度経済成長の終わりに伴って社会やその課題が変化し、政府が国民皆にもってもらいたいと考える自国に対する意識も変化したため、紙幣の図柄にのせる歴史上の人物も変化した。</p>
<p>パート2</p>	<p>○紙幣の図柄は時期によってだけでなく国によっても異なりますが、諸外国と日本の紙幣の図柄に共通の傾向はあるのでしょうか、それはなぜでしょうか。</p> <p>・アメリカ、イギリス、EU、エジプト、中国、インド、オーストラリアの場合をグループで分担し、図柄を確かめ、その訳を考えてみましょう。</p> <p>・アメリカを担当したグループは、わかったこと、考えたことを発表してください。</p> <p>・イギリスを担当したグループは、わかったこと、考えたことを発表してください。</p> <p>・EUを担当したグループは、わかったこと、考えたことを発表してください。</p>	<p>T:発問する S:予想する</p> <p>T:指示する S:グループで調べ、考える</p> <p>T:指示する S:発表する</p> <p>T:指示する S:発表する</p> <p>T:指示する S:発表する</p>	<p>② 教科書、ノート、資料集</p> <p>・外国でも歴史上の人物を紙幣にのせているのではないかなど</p> <p>・アメリカの場合、紙幣の表面の図柄は、歴史上の人物である。全員が白人の男性で、ワシントン大統領、リンカーン大統領などの政治家が描かれている。移民と植民地からの独立によって建国され南北戦争を経て国民国家として発展したアメリカでは、国民としての意識や国を愛する気持ちを皆に持ってもらうために、独立・建国や南北戦争などで活躍した政治家が描かれているのではないかなど</p> <p>・イギリスの場合、全ての紙幣の表面図柄は、現在の王であるエリザベス女王である。イギリスは議院内閣制をとる立憲君主制の国であり、世襲の王への親近感を持ってもらい、自国を愛する気持ちを国民皆に持ってもらうために、現在の王が全ての紙幣に描かれているのではないかなど</p> <p>・EUの場合、ユーロという共通通貨が使用されており、その表面にはギリシア・ローマ時代以降の様々な時期の建築様式の架空の窓が描かれている。EUは国家ではなく、諸国家の連合体であり、したがって特定の国を連想させるものをのせることはできない。EUの未来が開かれていることを様々な時期の建築様式の架空の窓によって象徴させ、皆に希望を持ってもらうとしているのではないかなど</p>

身のまわりの歴史に関するメタヒストリー学習としての終結単元

<p>パート2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エジプトを担当したグループは、わかったこと、考えたことを発表してください。 ・中国を担当したグループは、わかったこと、考えたことを発表してください。 ・インドを担当したグループは、わかったこと、考えたことを発表してください。 ・オーストラリアを担当したグループは、わかったこと、考えたことを発表してください。 <p>○紙幣の図柄は時期によってだけでなく国によっても異なりますが、諸外国と日本の紙幣の図柄に共通の傾向はあるでしょうか、それはなぜでしょうか。</p>	<p>T:指示する S:発表する</p> <p>T:指示する S:発表する</p> <p>T:指示する S:発表する</p> <p>T:指示する S:発表する</p> <p>T:発問する S:答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エジプトの場合、紙幣の表面にはイスラム教の寺院が描かれており、裏面には古代エジプトの遺跡や彫像などが描かれている。エジプトは古代エジプト文明の歴史をもつ国であり、現在はイスラム教を国教としているので、エジプトには誇りある歴史があることとイスラム教の国であることを国民皆に誇りに思ってもらい、国を愛する気持ちを持ってもらおうと考えているのではないか。 ・中国の場合、全ての紙幣の表面に毛沢東が描かれている。中国は共産党の一元独裁制の国である。中国を建国し国家主席をつとめた毛沢東を紙幣にのせ、建国の父であることを日々再確認してもらうことにより、建国当時の精神を思い起こしてもらい、中国が社会主義国であることを国民皆に意識してもらおうと考えているのではないか。 ・インドの場合、全ての紙幣の表面にガンディーが描かれている。インドはイギリスから独立してできた国である。ガンディーを紙幣にのせ、独立の父の存在を日々再確認してもらうことにより、自国の独立を思い起こしてもらい、自国に対する誇りや愛着を感じてもらおうと考えているのではないか。 ・オーストラリアの場合、表面にエリザベス女王、裏面に国会議事堂をのせる紙幣もあるが、その他の大多数の紙幣では表裏の両面に人物が描かれており、表面と裏面で交互に男女が選ばれている。過去に政治・経済・文化の諸分野で活躍した人物が取り上げられており、アボリジニの作家・発明家も含まれる。オーストラリアでは先住民のアボリジニや移民政策で移住してきた移民を含めた皆の平等が目指されているため、男女数に配慮したり、アボリジニの作家・発明家をのせたりすることにより、そのような社会目標を皆に意識してもらおうと考えているのではないか。 ・日本のように、歴史上の人物を紙幣の図柄にしている場合が多い。遺跡などの人物以外の歴史的なものを図柄にしている場合を含め、歴史的なものを図柄にしている場合が多いといえる。 ・現在の君主を紙幣の図柄としている国や国会議事堂を図柄としている国もある。
-------------	---	---	---

身のまわりの歴史に関するメタヒストリー学習としての終結単元

		<p>◎現在の紙幣の図柄として、福沢諭吉・樋口一葉・野口英世という歴史上の人物が選ばれたのはなぜか、改めて考えてみましょう。</p>	<p>T:学習課題を再提示する S:答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何れの場合も、自分たちの国や連合体に対する共通の意識を皆に持つてもらうための手段として、それに相応しいものを紙幣にのせ、皆に日常的に触れてもらおうとしている点で共通している。 など ・日本の明治期以降を振り返っても、世界の国々を見渡しても、自分たちの国や連合体に対する共通の意識を皆に促すために、紙幣の図柄をそれに相応しいものとしており、歴史上の人物や事物を図柄としている場合が多い。 ・現在の紙幣の3人は、世界の国々の紙幣と比べると、歴史的なもののなかでも事物ではなく人物であること、複数の人物であることという特色をもつ。 ・経済的な豊かさだけでなく文化的な豊かさや男女の均等な雇用機会の実現が課題となるなか、日本は文化的な豊かさや男女平等を大事にする国であり、それを一層実現していくという自国に対する意識を国民皆に促そうと考えた。そこで、歴史的なものは現在のものと違って評価が比較的定まっていること、そのなかでも人物は感情移入しやすく、業績によってメッセージをイメージしてもらいやすいことから、女性を含めた3人の歴史上の文化人を紙幣の図柄に選んだのであろう。
第Ⅲ段階	パート1	<p>・福沢諭吉・樋口一葉・野口英世という3人がのっている紙幣を日常的に使うことで、私たちは何か影響を受けているでしょうか。</p> <p>・紙幣の図柄をどうするかは重要な問題でしょうか。</p> <p>◎紙幣の図柄が福沢諭吉・樋口一葉・野口英世であること、また、紙幣の図柄を歴史上の人物とすることに問題はありますか、それはなぜでしょうか。</p> <p>○もし、紙幣の図柄を歴史上の人物とすることを続けるとしたら、その人物が福沢諭吉・樋口一葉・野口英世であることに問題はありますか、それはなぜでしょうか。</p>	<p>T:発問する S:答える</p> <p>T:発問する S:答える</p> <p>T:学習問題を提示する S:考える</p> <p>T:発問する S:考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3人のことを紙幣の肖像を通して知った。 ・3人が偉人であり、その功績はすばらしいものであると感じている。 ・文化人はすばらしいと感じている。 ・日本は男女が平等な国であり、平等を一層実現すべきと感じている。 ・日本は文化の豊かな国であり、一層豊かにすべきと感じている。 など ・紙幣の図柄は日本がどういう国かをアピールするものでもあり、自国に対する国民の意識に影響を及ぼしうるので、重要な問題ではないか。 など

<p>パート1</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文化面で大きく活躍した歴史上の男性・女性という今の選定基準を維持するとしたら、福沢諭吉・樋口一葉・野口英世という3人の選定は妥当でしょうか、より望ましい人物はいるでしょうか。教科書やノートや資料集も参考にして考えてみましょう。 以前の日本の紙幣の図柄は政治家でしたし、今の外国の紙幣のなかには政治家を図柄としているものもありますが、そもそも、文化面で大きく活躍した歴史上の男性・女性という今の選定基準は妥当でしょうか、より望ましい選定基準はあるでしょうか。グループで話し合ってみましょう。 グループで話し合ったことを発表してください。 	<p>T:発問する S:答える</p> <p>T:発問する S:グループで話し合う</p> <p>T:指示する S:発表する T:整理する</p>	<p>教科書、ノート、資料集</p> <ul style="list-style-type: none"> 福沢諭吉、樋口一葉、野口英世という3人がよい。なぜなら、3人は思想・教育・文学・科学という面で大きな功績をあげた人物であるから。 森鷗外がよい。なぜなら、森鷗外は『舞姫』『高瀬舟』などで有名な近代文学を代表する小説家であり、文学の発展という面で功績をあげたから。 伊能忠敬がよい。なぜなら、伊能忠敬は江戸時代に全国を測量して正確な日本地図をつくり、科学の発展という面で功績をあげたから。 津田梅子がよい。なぜなら、明治期にアメリカに留学し、帰国後に女子英学塾を設立した女子教育の先駆者であり、女子の教育の発展という面で功績をあげたから。 与謝野晶子がよい。なぜなら、与謝野晶子は「君死にたまふことなかれ」などで有名な女性の詩人で、文学の発展という面で功績をあげたから。 など <ul style="list-style-type: none"> 文化面で大きく活躍した歴史上の男性・女性という今の選定基準は妥当である。なぜなら、文化的に豊かで男女平等な社会の一層の実現を目指していくべきだから。 文化面で大きく活躍した歴史上の男性・女性という選定基準は妥当であるが、日本の伝統文化を象徴する歴史上の人物ものせるべきである。例えば、千利休、雪舟など。 文化面に限定する今の選定基準は妥当ではない。経済面で大きく活躍した歴史上の人物も選定すべきである。日本は経済大国であり、一層の経済発展を目指していくべきだから。例えば、渋沢栄一など。 文化面に限定する今の選定基準は妥当ではない。政治面とか経済面とか文化面とかにこだわらなくてよい。平和・人権・環境などを日本社会では重視しており、それらを一層追求していくべきなので、平和・人権・環境などのために尽力した歴史上の人物を選定すべきである。例えば、平塚らいてう、杉原千畝、小川正子、田中正造など。 日本人に限定する必要はあるのだろうか。外国人ではいけないのだろうか。 など
-------------	---	---	---

身のまわりの歴史に関するメタヒストリー学習としての終結単元

<p>パート2</p>	<p>○そもそも紙幣の表面の図柄を歴史上の人物とすることに問題はあるでしょうか、それはなぜでしょうか。</p> <p>・外国の紙幣のなかには歴史的な建築などを図柄にしているものもありますが、そもそも歴史的なもののなかでも特定の人物を紙幣にのせることは妥当でしょうか、特定の人物でないとしたら何をのせるとよいでしょうか。</p> <p>・紙幣の図柄として現在の自然風景や動物・植物、建築なども考えられますが、そもそも紙幣に歴史的なものをのせることは妥当でしょうか、歴史的なものでないとしたら何をのせるとよいでしょうか、グループで話し合ってみましょう。</p> <p>・グループで話し合ったことを発表してください。その後、皆で意見交換しましょう。</p> <p>◎紙幣の図柄が福沢諭吉・樋口一葉・野口英世であること、また、紙幣の図柄を歴史上の人物とすることに問題はあるでしょうか、それはなぜでしょうか、これまで出されたいろいろな意見を参考にして、紙幣の図柄の在り方について再度考え、自分の考えをまとめましょう。</p>	<p>T:発問する S:考える</p> <p>T:発問する S:答える</p> <p>T:発問する S:グループで話し合う</p> <p>T:指示する S:発表する S:意見交換する T:整理する</p> <p>T:学習課題を再提示する S:自分の考えをまとめる</p>	<p>・特定の人物をのせることはよい—なぜなら、具体的な人物だと功績からメッセージを具体的にイメージできるから。なぜなら、外国でも歴史上の人物を紙幣の図柄に採用している国は多いので、世界的にみて変なことではないと思うから。 など</p> <p>・特定の人物をのせることはよくない—なぜなら、人間にはいろいろな面があり、評価が分かれるから。なぜなら、国が特定の人物を偉人として評価づけて価値観を押しつけることは望ましいことと思えないから。なぜなら、外国の紙幣にも例があるように、人物よりも歴史的な文化遺産などのほうが日本らしさを表現できるから。 など</p> <p>・歴史的なものをのせることはよい—なぜなら、現在のものは評価が分かれることが多いが、それにくらべれば歴史的なものは評価が比較的定まっているから。なぜなら、社会全体で大切にすべきことを歴史的なものを介することで暗示し浸透させることができるから。 など</p> <p>・歴史的なものをのせることはよくない—なぜなら、歴史的なものをのせることは何らかの価値観と関連するから。なぜなら、紙幣は来日した外国人も使うので、外国人にもわかりやすい図柄のほうがよいから。なぜなら、かつて戦後の一時期に国会議事堂を表面の図柄として採用したように、民主主義という日本社会の根幹にかかわることを現在のものによって直接的に示し、民主主義をより大事にしていくべきだから。 など</p> <p>(省略)</p>
-------------	---	---	---

[資料] ①日本銀行券の図柄の一覧表（植村峻『お札のはなし』、印刷朝陽会、2006年、pp.109-110などをもとに作成）
 ②世界の国々の紙幣の図柄（植村峻『お札のはなし』、印刷朝陽会、2006年、pp.50-52・86-89などをもとに作成）

Ⅳ 小学校「お札の顔の昔と今」と中学校「紙幣の図柄が表すもの」の共通点と相違点

小学校歴史教育の終結单元「お札の顔の昔と今」と中学校歴史教育の終結单元「紙幣の図柄が表すもの」との共通点と相違点を説明しよう。

両单元の主な共通点は、次の3点である。

第1の共通点は、身近にある既存の歴史に関するメタヒストリー学習をねらうことである。小学校の「お札の顔の昔と今」も、中学校の「紙幣の図柄が表すもの」も、身のまわりにある紙幣の図柄を広義の歴史として取り扱う。紙幣は児童・生徒が日常において使用しているものであり、その図柄には歴史上の人物の肖像が用いられている。そのような紙幣を両单元ともに広義の歴史として取り扱い、分析検討にあたらせる。そのような“お札の顔”という身近にある歴史について取り組むメタヒストリー学習としての終結单元の学習は、社会のなかの様々な歴史の存在を意識させることにつながりうるものである。とともに、中学校の児童にとっては勿論、小学校の児童にとっても不可能なものではない。小学校の児童にとって、人物学習中心で過去について取り組んできたヒストリー学習の成果を総動員して取り組むことのできる学習である。

第2の共通点は、メタヒストリー学習の第1～3層の学習をカバーすることである。小学校の終結单元では、「今のお札の顔は別の人物の顔にかえるほうがよいでしょうか、それとも今のままのほうがよいでしょうか、それはどうしてでしょうか」という問いに基づき、中学校の終結单元では、「紙幣の図柄が福沢諭吉・樋口一葉・野口英世であること、また、紙幣の図柄を歴史上の人物とすることに問題はあるでしょうか、それはなぜでしょうか」という問いに基づき、既存の歴史への対応を判断する第3層の学習までねらう。小中学校の何れにおいても、歴史の在り方を通して社会の在り方を考える第3層の学習によって、社会科としての歴史学習をしめくくるわけである。

第3の共通点は、メタヒストリー学習の第1・2層の学習のために自他社会間の比較を位置づけることである⁶⁾。また、それによって近現代を大きく振り返ることができるようにすることである。小学校の終結单元では第Ⅰ段階において、中学校の終結单元では第Ⅰ・Ⅱ段階において、紙幣に関する自他社会間比較を位置づけている。しかも、現在の場合と過去の場合の時間的比較を共通して配している。それは歴史としての紙幣の内容の理解や理由・背景の認識のための手段として自他社会間比較が有効だからであると同時に、歴史学習の終結单元として近現代を紙幣のうつりかわりに即して振り返ることを可能にするためでもある。

一方、両单元の主な相違点は、次の3点である。

第1の相違点は、自他社会間比較における比較対象の範囲の広がり異なることである。小中学校の何れの終結单元でも、メタヒストリーの第1層の学習や第2層の学習のために自他社会間比較を組み込んでいる。けれども、小学校では現在と過去との時間的比較に留めているのに対し、それに加えて中学校では「紙幣の図柄は時期によってだけでなく国によっても異なりますが、諸外国と日本の紙幣の図柄に共通の傾向はあるでしょうか、それはなぜでしょうか」という問いに基づき、此処と他所との空間的比較も組み込んでいる。それはより広い視野からの図柄の特色の把握と紙幣における歴史的存在の利用に関する一般化をねらうためである。中学校の歴史的分野では日本の歴史だけでなく世界の歴史へも学習対象を一定程度広げるとともに、地理的分野で世界地理の学習を行うために、このように空間的な自他社会間比較も一定程度可能となる。そのような条件を生かして、中学校では歴史的存在の政治的利用に関する一般的認識を育み、その一例として現在の日本における有り様を対象化できるようにすることをねらっている。

第2の相違点は、妥当性の吟味検討において問うレベルの深さが異なることである。小学校と中

学校の終結単元では第3層の学習を行うにしても、対応の判断のために妥当性をどのレベルまで問うかが違う。小学校では、「今のお札の顔は別の人物の顔にかえるほうがよいでしょうか、それとも今のままのほうがよいでしょうか、それはどうしてでしょうか」という問いに基づき、紙幣における歴史上の人物の利用を前提にし、その枠内での妥当性を吟味検討する。それに対して、中学校では「もし、紙幣の図柄を歴史上の人物とすることを続けるとしたら、その人物が福沢諭吉・樋口一葉・野口英世であることに問題はあるでしょうか、それはなぜでしょうか」に加え、さらに「そもそも紙幣の表面の図柄を歴史上の人物とすることに問題はあるでしょうか、それはなぜでしょうか」と問い、歴史上の人物の利用という枠組そのものの妥当性にまで遡って吟味検討する。歴史の在り方を通して社会の在り方を考えるために、小学校では現状の枠組のなかでの人物の選定やその基準を吟味検討の対象とするに留め、さらに中学校では現状の枠組それ自体を吟味検討の対象にすることでより根底的に問うことができるようにするわけである。

第3の相違点は、これらの相違に基づき、メタヒストリー学習における重点が異なることである。小学校の「お札の顔の昔と今」は、紙幣の図柄の内容を理解し理由・背景を認識する第Ⅰ段階の学習が中心である。既存の紙幣の図柄への対応を判断する第Ⅱ段階の学習を後続させるけれども、そこに比重をおくわけではない。比重は第Ⅰ段階にあり、メタヒストリー学習における第1・2層の学習を相対的に重視している。他方、中学校の「紙幣の図柄が表すもの」は、紙幣の図柄の内容を理解する第Ⅰ段階、紙幣の図柄の理由・背景を認識する第Ⅱ段階だけでなく、紙幣の図柄への対応を判断する第Ⅲ段階の学習にも重きをおく。メタヒストリー学習における第1・2・3層の各層の学習を重視している。

このように小中学校の終結単元は何れも、紙幣の図柄という身近にある歴史について取りあげ、第1層から第3層までのメタヒストリー学習をカバーし、その一環において自他社会間比較を通して近現代を大観する。と同時に、小学校では時間的な自他社会間比較に留めるのに対し、中学校では空間的な自他社会間比較も可能にし、より広い視野からの対象の把握と歴史の政治的利用に関する一般化をねらう。また、小学校では歴史上の人物の利用という現状の枠組のなかでの人物の選定やその基準を吟味検討させるに留めるのに対し、中学校では歴史上の人物の利用という枠組それ自体も吟味検討させ、より深いレベルで問いなおすことができるようにする。これらによって小学校の終結単元でも中学校の終結単元でもメタヒストリー学習をトータルにカバーしつつ、第1・2層中心の小学校の学習と第1・2・3層中心の中学校の学習とによる段階性をねらっているのである。

V おわりに

最後に、以上を踏まえ、小学校社会科の歴史教育における終結単元、中学校社会科の歴史教育における終結単元、そして、それらの関係についてまとめよう。

小学校歴史教育の終結単元におけるメタヒストリー学習では、児童の身のまわりにある歴史を取り上げ、時間的な自他社会間比較に基づいて既存の歴史の内容を理解し理由・背景を認識する学習に比重をおく。それらを前提にして、現状の枠内において対応を判断する学習にも取り組めるようにする。そうすることにより、第1・2層の学習に比重をおきつつ、トータルなメタヒストリー学習を可能にすることができる。

中学校歴史教育の終結単元におけるメタヒストリー学習では、生徒の身のまわりにある歴史を取り上げ、時間的な自他社会間比較と空間的な自他社会間比較とに基づき、広い視野から既存の歴史の内容を理解し理由・背景を認識する学習、そして、現状の枠内での妥当性ととも枠組それ自体の妥当性にまで深く遡って吟味検討し対応を判断する学習に取り組めるようにする。そうすることにより、第1・2層だけでなく第3層の学習にも重きをおくメタヒストリー学習を可能にすること

ができる。

こうして小中学校の歴史教育においてメタヒストリー学習としての終結単元を可能にすることにより、小学校歴史教育と中学校歴史教育の終結単元において児童・生徒が身のまわりにある歴史の分析検討に取り組む学習を一貫して保証することができる。と同時に、小学校での第1・2層中心の学習と中学校での第1・2・3層中心の学習とで段階性をもたせることができ、高等学校の歴史教育におけるメタヒストリー学習の対象の拡大や比重の移行に向けて準備することも可能となる。

このような小中学校の歴史教育におけるメタヒストリー学習としての終結単元の在り方は勿論、唯一のものではない。児童・生徒が現在の社会のなかの歴史を分析検討することで、過去について取り扱う現在の社会に関して取り組み、歴史の在り方を通して社会の在り方を考えられる機会をそれぞれの学校段階に応じて保証するために、社会の形成者の育成に向けた歴史教育における終結単元の多様な可能性が検討される必要がある。

註

- 1) 服部一秀「社会のなかの歴史に関するメタヒストリー学習の意義ードイツの歴史教科書『歴史と出来事ーテューリンゲン州版』を手がかりにしてー」, 社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第28号, 2016年, pp.11-20, 参照.
- 2) 高等学校日本史の終結単元の開発研究には, 角田将士「高等学校地理歴史科「日本史」の単元開発(2)ー終結単元「日本近代史から何が学べるか」ー」, 『学校教育実践学研究』第13巻, 2007年, pp.203-210がある。

なお, 中学校社会科の2017年版学習指導要領では, 「歴史と私たちとのつながり, 現在と未来の日本や世界の在り方」について考察・構想する総括的学習が歴史的分野における現代史学習の一環として求められている。本稿は, メタヒストリー学習に基づく終結単元の可能性を明らかにすることで応えようとするものでもある。

- 3) これまでも紙幣の教材化が行われてこなかったわけではないが, 過去についての語りとしての紙幣の取り扱いが殆ど意図されてこなかった。先行の取り組みのなかでは, 田尻信壹『探究的世界史学習の創造』, 梓出版社, 2013年, pp.151-162における過去の外国における紙幣の取り扱い, 廣川みどり「一枚の紙幣からわかることーウズベキスタン紙幣を使った授業」, 歴史教育者協議会『歴史地理教育』2013年11月号, pp.58-61における現在の外国における紙幣の取り扱いが注目されるが, これらは高等学校の世界史授業での取り組みである。
- 4) 植村峻『紙幣肖像の近現代史』, 吉川弘文館, 2015年, p.3・4.

なお, 本稿では, 日本の紙幣の歴史について, 同書の他, 植村峻『お札のはなし』, 印刷朝陽会, 2006年, 東野治之「紙幣の聖徳太子」, 『史学雑誌』第118編第9号, 2009年, pp.33-35, 草野正裕『日本のお金の歴史』, ゆまに書房, 2016年, 武光誠『お札になった人々』, 青春出版社, 2004年なども参考にした。

- 5) 植村峻『お札のはなし』, 印刷朝陽会, 2006年, pp.86-89.

なお, 本稿では, 諸外国の紙幣について, 同書の他, 富田昌宏『銀行券にみる近現代世界の国々』, 印刷朝陽会, 2013年なども参考にした。

- 6) メタヒストリー学習にとっての自他社会間比較の意味については, 服部一秀「メタヒストリー学習にとっての比較の意味」, 『山梨大学教育学部紀要』第26号, 2018年(掲載予定)を参照されたい。

本研究は, J S P S 科研費26381189の助成を受けたものである。